

愛媛大学開学70周年及び第10回ホームカミングデイ合同記念式典学長式辞

本日、愛媛大学開学70周年を迎えるにあたり、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の生田知子視学官、愛媛県の中村時広知事、愛媛大学校友会の高橋祐二会長をはじめ各界を代表するご来賓の方々をお迎えし、加えて、本学の名誉教授、同窓会、教職員OBの皆さまが参列される中、ここに、愛媛大学開学70周年及び第10回ホームカミングデイ合同記念式典を挙行できますことを心より御礼申し上げます。

愛媛大学は、昭和24年、文理学部、教育学部、工学部の3学部体制で発足し、その後、昭和29年の農学部設置、昭和43年の法文学部と理学部の誕生、昭和48年の医学部、平成28年の社会共創学部新設を経て、現在、7学部6研究科、約1万人の学生が学ぶ四国最大の国立総合大学に発展しております。

この間、学部卒業生86,737人、大学院修了生15,066人の10万人を超える人材を社会に輩出してこられたことは本学の誇りであり、ひとえに皆さま方のご指導とご支援の賜物と深く感謝いたしております。

70年の歴史の中で、平成16年の法人化が、本学をはじめ、全国の国立大学に大きな変革をもたらしたのはご承知のとおりです。各法人は6年毎に中期目標を定め、質の高い教育や特色ある研究の実践に向けて自主的な取組を推進することとなりましたが、本学も、現在の第3期中期目標期間では、重点支援枠の「地域貢献型」を選択し、大学憲章に掲げる「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」、「世界とつながる大学」の実現を目標に、地域とともに歩む姿勢をより鮮明にいたしました。

本学は、学部・研究科に対する横断的な支援組織である「教育・学生支援機構」、「社会連携推進機構」、「先端研究・学術推進機構」、「国際連携推進機構」を中心に、3つの戦略を立て、「輝く個性で地域を動かし、世界と繋がる大学」の実現のため邁進いたしております。

その中の戦略1は「地域の持続的発展を支える人材の育成」です。本学では、基本的な教育指針である「愛大学生コンピテンシー」のもと、柔軟な思考力と課題解決力を有する人材を養成しています。また、COCやCOC+事業などの地域創生支援プロジェクトや地域定着奨学金の創設を通じて地域就職率のアップに取り組み、特に、平成28年4月には文理融合型の社会共創学部を新設して、サーバントリーダーシップを有する地域志向人材を育成しています。来春には、いよいよ、その1期生が社会へと羽ばたくことになりました。

戦略2は「地域産業イノベーションの創出」で、地域産業特化型と地域協働型の2つのタイプの地域密着型研究センターが活動の中核を担っています。前者の代表格が「南予水産研究センター」や「紙産業イノベーションセンター」ですが、そこでは、本学の教員が地域に居住し、地場産業と密接に連携しながら共同研究や技術開発を推進しています。後者のセンターは、より幅広い分野で地域課題の解決に貢献する機能を担っており、平成28年7月の「地域協働センター西条」の設置を皮切りに、今年10月には「地域協働センター南予」を西予市に開設し、今後は「観光」や「健康」などをテーマとしたセンターを中予地域に設置する予定です。

加えて、本年4月、地域文化研究を通じた地域との交流を目的に、「地域共創」「四国遍路・世界の巡礼」「俳句・書文化」の3つの文系センターを設置しました。このあと、ご講演いただく夏井いつき先生にも、俳句・書文化研究センターの客員研究員としてお力添えをいただいているところです。

今ご紹介した多彩なセンター群を地域のステークホルダーとの接点に据えて地域創生を目指すことが本学の社会連携活動の特徴と言えるでしょう。

戦略3は「世界をリードする先端研究拠点の強化」です。本学には「沿岸環境科学研究センター」、「地球深部ダイナミクス研究センター」、「プロテオサイエンスセンター」など世界トップレベルの先端研究センターが数多くあります。特に、前の2つのセンターは、全国共同利用・共同研究拠点に認定されており、国内および海外との共同研究成果は非常に高い評価を得ています。現在、学内に10のリサーチユニットを認定するなど、これらの研究センターに続く新たな研究拠点の育成にも注力しています。

さて、本学の国際連携のターゲットは、インドネシア、ネパール、フィリピン、モザンビークなどのアジア・アフリカ諸国ですが、平成24年の「大学の世界展開力強化事業」、平成29年の「留学生就職促進プログラム」採択により、さらに充実した活動を展開しています。現在実施中の「留学生就職促進プログラム」では、留学生の県内への就職を促進するために、地元企業をはじめとする関係者の皆さまには多大なご協力をいただいております。ここに深く感謝申し上げます。

本日紹介してまいりました様々な活動は、もちろん本学の構成員だけで実現できるものではありません。これは、平成16年に設立された校友会をはじめ、各学部の同窓会の皆さま、そして、多くの企業や地元ステークホルダーの皆さまからの心強いご支援の賜物であり、同時にそれが、本学に寄せられている皆さまからの期待の大きさを表わしているものと深く受け止めております。

18歳人口の減少、Society5.0の実現に向けた社会の変化など、国立大学を取り巻く環境が大きく変化する中で、今年、元号が平成から令和へ変わり、新たな時代が幕を開けました。このたび、開学70周年を迎えるにあたり、これら環境の変化をチャンスと捉え、多くの先人が培ってこられた伝統を大切にしながら、地域社会の多様性を高め、地域の持続的発展に貢献することを使命に、より地域から信頼され、愛される大学に成長するよう前進して参ります。

今後とも愛媛大学に対して温かいご指導、ご支援を賜りますとともに、今後の挑戦にぜひご期待ください。

令和元年11月11日

国立大学法人愛媛大学長 大橋 裕一